



田中正明先生を偲んで

石川重遠

2014年1月10日に日本デザイン学会より訃報が届きました。「当学会名誉会員 田中正明氏におかれましては、去る12月29日に急逝されました。……ここに生前のご厚誼を深謝し謹んでご通知申し上げます。」

お元気そうであった先生の82歳の急逝に未だ信じ難く、日増しに落胆と喪失感に見舞われています。

田中正明先生はどのような方なのか、日本デザイン学会とどのように関わられたのかは、近著の著者紹介を見ると先生のプロフィールの一端がうかがえます。

- 1931年（昭和6年）、東京都に生まれる。
- 1953年、東京芸術大学美術学部工芸科圖案部卒業。
- 1962～63年、欧米デザイン大学を「視察」。
- 1977～1985年、日本欧文タイポグラフィ学会理事長。
- 1981年、イリノイ工科大学デザイン学部客員研究員。
- 1992年、日本デザイン学会功労賞受賞。
- 2003年、日本デザイン学会50周年記念表彰。
- 現在、女子美術大学名誉教授、日本デザイン学会名誉会員

先生の著書「日本デザイン学会小史」（2011年刊）は、日本デザイン学会の準備段階から1994年（平成6年）までデザイン学研究誌に掲載されたものをまとめられています。この1冊の著書は半世紀を越す会員歴の先生が生涯日本デザイン学会にいかにか重きを置き、学会へ貢献されたかを示しています。これをひも解けば先輩諸氏や田中先生のデザインへの取り組みによって現在の私達があることを実感できます。

先生は日本欧文タイポグラフィ学会で活動をしてこられまし

たが、日本デザイン学会内にタイポグラフィ研究部会の設立（2007年4月）を望み、その折には先生からの強力な後押しをいただきました。これをきっかけにその後私は先生と親しくさせていただいておりました。昨夏にはお電話をいただき、「（デザイン学研究）特集号をまた出しませんか。執筆しますよ。」という申し出がありました。既にタイポグラフィに関する2冊の特集号に先生の巻頭言と論文を掲載していただいたばかりでした。もしかすると先生のタイポグラフィ研究部会での論文執筆が日本デザイン学会での最後の活動となったのかもしれない。

田中先生とは素晴らしい思い出があります。平成23年3月12日土曜日午後1時半に武蔵野美術大学新宿サテライト校で行われた「田中正明先生講話会」のことです。前日は東日本大震災で、電車の運行状況も悪く、先生や聴衆の集合が心配でした。大震災のため講話会場までのビルのエレベータは動かず、先生は資料の入った重いバッグを両手に持って階段を9階まで上ってくださいました。お話しは奇跡的にほぼ定刻通りに始まり、大学卒業後、出版社最初のデザイナーとして勤務し、美術大学の教員、そして世界のデザイン教育とデザインの視察、アメリカのイリノイ工科大学での研究生生活、デザイン書執筆等が簡潔に語られました。そして、持参されたアメリカのポスターを指し、絵や写真と共に見出し文字の位置、大きさ、書体等が視覚伝達に重要であり、それが文字とデザイン、つまり、タイポグラフィ研究を始める動機につながったという興味深いお話をうかがいました。さらに持参された資料の数々の閲覧と先生への質問および説明が続き、時を忘れた盛り沢山の講話会が終了しました。先生ご自身が作られたグラフィックデザイン分野におけるアカデミックな環境、デザイン教育の近代化へ積極的に取り組んだ足跡の偉大さを認識し、感銘いたしました。

田中先生は著書・著述の多い方です。そこにはご自身のデザインの実践、思考、研究などを文字化、画像化し、記録して伝える信念と努力があります。デザイン教育者として、デザインの基礎、グラフィックデザイン、ビジュアル・デザイン、視覚伝達デザインなどの本を多数出版し、基礎から専門、デザインの時代性を考え、ご自身の教育に反映させ、なおかつ多くのデザイン教育者やその学生へ多大な影響を与えてきました。

また、世界デザインスクールめぐり、デザインの旅などの記事や本は、先生がグローバルな視点からデザインを鳥瞰し、常にその動向を捉えようとする行動にとどまらず、それを本に留め、多くのデザイン情報として発信しています。

ビジュアル・デザインの先達として、モダンデザインの黎明期を歩まれた先生の貴重な真実の体験を十分お聞きすることなく逝かれたことが今となっては悔やまれてなりません。

ここに田中正明先生のご冥福をお祈り申し上げます。

日時■平成24年12月15日(土曜日)

14:00～17:00

場所■芝浦工業大学 田町キャンパス

出席者■山中, 松岡, 須永, 浅沼, 五十嵐, 池田, 片岡,
國本, 久保(雅), 久保(光), 黄, 杉山, 高野,
中嶋, 生田目, 野口, 橋田, 蓮見, 三橋, 両角,
小野

委任状出席■青木(史), 青木(弘), 井上, 伊原, 岡崎,
清水, 工藤, 國澤, 杉下, 田村, 寺内, 永井,
萩原, 古屋, 細谷, 山崎, 森田, 山内, 佐藤,
八馬

1. 会長挨拶

山中会長から挨拶がなされた。

2. 平成24年度第5回理事会議事録の承認

(小野本部副事務局長)

平成24年度第5回理事会の議事録が示され, 原案通り承認された。

【審議事項】

3. 支部企画委員長の交代について(山中会長)

浅沼支部企画委員長が, 仕事の都合, 支部企画委員長の継続は困難が予想されるため, 両角第一支部長に, 支部企画委員長を委嘱したいとの提案がなされ, 審議の後, 承認がなされた。

4. 春季研究発表大会テーマセッション募集告知(案)

について(須永研究推進委員長)

平成25年春季研究発表大会のテーマセッション募集告知について案が出された。審議の結果, 従来通り, 研究部会主査宛て, および会員宛てに告知を行い, 研究推進委員会が取りまとめ, 理事会で審議すること。また締め切りを1月20日とすることが承認された。

また松岡副会長から, オーガナイズドセッションとの区別を明確にする必要がある, 山中会長から, 単にテーマを提案するというのではなく, オーガナイズも行う必要がある旨を記載する必要があるとの提案がなされた。

5. 第60回春季研究発表大会について

(五十嵐春季大会実行委員長)

テーマ, スケジュールについて, 場所については, 6月21日は筑波大学学生会館, 22・23日は筑波大学5C棟で開催する予定であるとの案が示され, 承認がなされた。

須永副会長から, 60周年特別セッションについて, デザイン産業界の参加を活性化させる企画を考えて頂きたいとの要望が出された。また, 学生交流セッションについて, 山中会長から基本的には学生主体で進めるのが望ましいが, サポート役として, 研究推進委員会から誰か推薦して頂きたいとの提案がなされた。

6. 春季研究発表大会のオーガナイズドセッションの募集について(松岡企画委員長)

松岡企画委員長より, 春季大会のオーガナイズドセッションの募集方法について案が示され, 審議の後, 例年通り募集を行い, 企画委員会で案を作成した後, 次回の理事会で審議すること, また締め切りをテーマセッションと同じ, 1月20日とすることで承認がなされた。また松岡企画委員長より, 500字程度の概要を提出してもらい, 具体性がある提案を優先していきたい, また他学会のコラボレーションも積極的に進めていきたいとの提案がなされた。

7. 会員の移動について(小野本部副事務局長)

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果, [入会(正会員4名(内外国人1名), 学生会員3名, 退会(正会員2名)]が承認された。

8. メディカルイノベーションプロジェクトのシリーズ講演に関する協賛について(國本理事)

國本理事から提案された, 公立大学法人名古屋市立大学大学院附属環境デザイン研究所主催のメディカルイノベーションプロジェクトのシリーズ講演に対する学会の協賛について, 審議がなされ, 日程も迫っているため, 正式な書類を後日提出することを条件として, 承認がなされた。

9. 論文集・作品集等の著作権に関わる状況報告(岡崎学会誌編集・出版委員長 代)久保(光)論文審査委員長)

岡崎学会誌編集・出版委員長の代理として, 久保論文審査委員長より, 論文集・作品集等の著作権に関わる状況について報告がなされた。その中で, 著作権規程(案)について, 専門家にチェック頂いた結果, 原案に対する不備が何点か指摘されたため, 今後は費用は生じるが, 専門家に依頼し著作権規程を整備していきたいとの提案がなされ, 審議の結果, 承認がなされた。

また4月1日より, 論文電子投稿システムが本格稼働するとの報告がなされた。

【報告事項】

10. 秋季企画大会学生プロポジション報告

(須永研究推進委員長)

須永研究推進委員長より、秋季企画大会学生プロポジションについて報告がなされた。5件に対して表彰を行ったとの報告がなされた。問題点として、学生プロポ発表者に、大会における学生プロポジションの位置づけを、しっかり伝えることができなかった、またスケジュール的に、大会全体との連携が厳しかったとの指摘がなされた。

11. J-STAGE アクセス統計データ報告

(久保(光)論文審査委員長)

久保論文審査委員長より、11月、12月のJ-STAGEへのアクセス状況について、報告がなされた。総アクセス数が少ない理由として、告知が上手くできないと考えられるため、改めてちらしにより会員へ告知することとした。

12. 日本学術会議若手アカデミー委員会ネットワーク構築

について(山中会長)

山中会長より、日本学術会議若手アカデミー委員会より、若手研究者の会の活動内容について紹介して欲しいとの要望があったとの報告がなされた。現在、当学会には若手研究者の会は存在しないため、今回は該当する活動は無いと回答する予定であるとの報告がなされた。ただし、今後は若手を中心とした活動も積極的に進めたいとの提案がなされた。

13. デザイン学会広報パンフレットについて(山中会長)

山中会長より、学会のパンフレットに掲載する内容について、確認がなされた。

14. IASDR 2013 準備状況について(杉山担当理事)

杉山会長より、第8回IASDR 2013組織委員会の報告を基に、現状について説明がなされた。

15. 秋季大会決算報告(塚原大会実行委員長(代)小野本部副事務局長)

塚原大会実行委員長の代理として、小野本部副事務局長より会計報告がなされた。

16. 横断型関連学会連合の10周年記念の特別号について

(松岡担当理事)

松岡担当理事より、横断型関連学会連合の10周年記念特別号に、デザイン学会の紹介ページが掲載されるとの報告がな

れた。

17. アジア・ネットワーク・ビヨンド・デザイン

ANBD 2012 横浜展について(松岡副会長)

松岡副会長より、アジア・ネットワーク・ビヨンド・デザインANBD 2012 横浜展について告知がなされた。

(記録:小野)

平成24年度第7回理事会議事録

日時■平成25年2月16日(土曜日)

15:00～17:00

場所■芝浦工業大学 田町キャンパス

出席者■山中, 松岡, 須永, 五十嵐, 片岡, 久保(光), 生田目, 佐藤(浩), 佐藤(弘), 小野

委任状出席■清水, 両角, 山内, 山崎, 八馬

欠席■岡崎

1. 会長挨拶

山中会長から挨拶がなされた。

2. 平成24年度第6回理事会議事録の承認

(小野本部副事務局長)

平成24年度第6回理事会の議事録が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 第60回春季研究発表大会について

(五十嵐春季大会実行委員)

五十嵐春季大会実行委員長より、全体スケジュール、基調講演、特別フォーラム、懇親会などについて説明がなされ、審議の後、承認がなされた。学会各賞記念講演をスケジュールに設けること、会報に大会案内を掲載する必要があるため、早急にスケジュールを確定して頂きたいとの依頼がなされた。

4. 春季研究発表大会のOSについて(松岡企画委員長)

松岡企画委員長より、オーガナイズドセッションの応募結果について報告がなされた。また佐藤(浩)幹事より、応募のあった4件の内容について説明がなされ、審議の後、4案全て承認がなされた。

5. 春季研究発表大会テーマセッション募集について

(須永研究推進委員長)

須永研究推進委員長より、応募のあった10件のテーマセッ

ションについて、須永研究推進委員長より説明がなされ、審議の結果、承認がなされた。また登録サイトにテーマセッションの情報を掲載する必要があるため、春季研究発表大会概要集編集委員会へデータを送付して欲しいとの依頼がなされた。

6. 春季研究発表大会学生交流セッションについて

(須永研究推進委員長)

須永研究推進委員長より、学生交流セッションについて説明がなされた。テーマ「デザインの行為と思考：デザインの学生たちは何をどう学んでいる」、スケジュール案、日程について審議がなされた、承認がなされた。また大会によって名称が異なる場合があるため、名称を学生交流ワークショップとすることで承認がなされた。佐藤本部事務局長より、学生交流ワークショップの参加者を通常の参加者と識別するため名札などを用意して欲しいとの依頼がなされた。

7. 春季研究発表大会概要集投稿システム

(細谷概要集編集委員長(代) 佐藤(弘) 本部事務局長)

細谷概要集編集院長の代理で、佐藤本部事務局長より、春季研究発表大会のための概要集投稿システムの利用について説明がなされ、審議の後、承認がなされた。

8. 学会誌電子化計画について

(寺内学会誌編集・出版委員(代) 佐藤(弘) 本部事務局長)

寺内編集出版委員の代理として、佐藤本部事務局長より、学会誌電子化計画に伴う著作権の取り扱い方について説明がなされた。著作権は著者から学会に譲渡する形に現状はなっているが、将来的には、著作権は著者に残し、公衆送信権を学会が有する形が適切ではないかとのアドバイスを弁護士から頂いたとの説明がなされ、審議の後、方向性については承認がなされたが、山中会長より、著作権を著者に残した形で、J-STAGEが受け付けてくれるか確認が必要との意見がなされ、学会誌編集・出版委員会よりJ-STAGEに確認頂き、次回の理事会で再度審議することとした。

9. 「創造技術」の英訳について

(山内教育・資格委員長(代) 片岡教育・資格委員)

山内教育・資格委員長の代理として、片岡教育・資格委員より、JABEEから「創造技術」の英訳について問合せがあったことについて説明がなされた。審議後、現在適切な訳は存在しておらず、Washington Accordとの互換を考慮して決めて頂きたいと回答することとした。

10. 会員の移動について(小野本部副事務局長)

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、[入会(正会員13名(内外国人2名)、学生会員1名)、退会(正会員14名、学生10名)]が承認された。

11. 研究部会の活性化に関連する会則変更について

(須永研究推進委員長)

須永研究推進委員長より、研究部会統括運営細則、研究推進委員会規定について不備があるため、修正案が提示された。審議の後、その他修正が必要な個所もあるため、本部事務局で変更案を作成し、次回の理事会で諮ることとした。

【報告事項】

12. 論文審査委員会報告(久保(光) 論文審査委員長)

久保論文審査委員長より、現在の投稿・審査状況について、現時点(2月14日)で107本の投稿があり、本年度は昨年度同様120本程度の投稿が予測されるとの報告がなされた。

13. 作品審査委員会報告

(清水作品審査委員長(代) 須永作品審査委員)

清水作品審査委員長の代理として、須永作品審査委員より、平成24年度作品審査の経緯について説明がなされ、最終的には14件の作品を掲載する予定であるとの報告がなされた。

14. 研究部会アンケート報告(須永研究推進委員長)

須永研究推進委員長より、研究部会に対して行ったアンケート結果について報告がなされた。16研究部会のうち10研究部会から回答があったこと、あまり活発に活動がなされていない部会があることなどについて報告がなされた。今後は、総会資料に研究部会報告を載せるなど、活性化のために、なんらかの対策が必要であるとの指摘がなされた。

15. IASDR2013準備状況について(山中会長)

山中会長より、IASDR2013の準備状況について説明があり、アブストラクトの投稿が1000件を超え、概ね予定通りの運営が可能であろうとの報告がなされた。

(記録：小野)

日時■平成 25 年 3 月 16 日（土曜日）

14:00～17:00

場所■芝浦工業大学 芝浦校舎（田町）

3 階 305 室

出席者■山中, 松岡, 須永, 青木(史), 青木(弘), 五十嵐, 池田, 伊原, 片岡, 清水, 國澤, 國本, 久保(雅), 久保(光), 黄, 杉下, 杉山, 高野, 寺内, 中島, 萩原, 三橋, 森田, 両角, 酒井, 佐藤(浩), 佐藤(弘), 八馬

委任状出席■浅沼, 井上, 岡崎, 工藤, 田村, 永井, 生田目, 野口, 橋田, 蓮見, 古屋, 山内, 山崎, 小野

1. 会長挨拶

山中会長より挨拶がなされた。

2. 平成 24 年度第 7 回理事会議事録の承認

(八馬本部事務局幹事)

八馬本部事務局幹事より平成 24 年度第 7 回理事会の議事録(案)が提示され、承認された。

【審議事項】

3. 第 60 回春季研究発表大会について

(五十嵐春季大会実行委員長)

五十嵐春季大会実行委員長より、配付資料に基づき、運営体制、スケジュール、各種企画の案が示され、承認された。山中会長より各理事に対して、多くの方々にご参加いただけるよう広く周知することが求められた。

4. オーガナイズドセッション（OS）の計画と費用について

(松岡企画委員長・佐藤(浩)幹事)

松岡企画委員長、酒井理事、清水理事より、配付資料に基づき、第 60 回春季企画大会における 4 つの OS 企画案の概要が示され、承認された。さらに、これまでは個別に対応していた OS の経費に関する規定(案)が佐藤(浩)幹事より提示された。OS 本来の目的でもある外部の方々を招いて研究領域を拡張することは重要であるとの観点から、提示された案に基づきながら例外も認める方向で、継続して検討を進めることとなった。

5. 第 60 回春季研究発表大会特別フォーラム企画について

(須永研究推進委員長)

須永研究推進委員長より、配付資料に基づき、第 60 回春季研究発表大会における特別フォーラムの企画案について説明がなされた。観察対象とするデザイン実践者をどのようなタイプにするか、デザインの対象やテーマをどうするかなど、より詳細に検討する必要があるが、提案の方向で特別フォーラムを進めることとなった。

6. 第 60 回春季研究発表大会学生交流ワークショップ募集要項について (杉下研究推進委員)

杉下研究推進委員より、配付資料に基づき、第 60 回春季研究発表大会における学生交流ワークショップの企画および運営方法について説明がなされた。同ワークショップが定着してきたこともあり、会員層の底上げを図るために、人数の上限は設けずに募集を図ることとなった。

7. 『デザイン学研究』投稿規定等の見直し

(久保(光)論文審査委員長)

久保(光)論文審査委員長より、投稿規定に関してこれまでの理事会で承認されてきた個別の内容をまとめた資料に基づいて説明がなされ、承認された。筆頭者の会員資格や学生会員の立場などについては、学生会員の拡大という観点も重要になることから、別の機会に議論を設けることとなった。

8. 会員の移動について (八馬本部事務局幹事)

事務局に提出された書類を閲覧、審査した結果、入会 [正会員 8 名、学生会員 4 名 (内外国人 1 名)]、退会 [正会員 2 2 名 (内外国人 2 名)、学生会員 2 名] が承認された。

9. その他

山中会長より、IASDR2013 において、主催団体であるデザイン学会も展示を行う方針が示され、承認された。展示については広報委員会に依頼することとなった。

山中会長より、平成 25 年度秋季企画大会、平成 26 年度春季研究発表大会、平成 26 年度秋季企画大会の開催地について提案がなされ、関連する大学において検討を進めることとなった。

【報告事項】

10. 学会記事紹介について (松岡横幹連合担当理事)

松岡横幹連合担当理事より、横幹連合の機関誌における前会長の青木理事による会員学会紹介の記事が紹介された。

11. 第 59 回春季研究発表大会について

(酒井大会実行委員長)

酒井大会実行委員長より、配付資料に基づき、2012年6月に札幌にて開催された第59回春季研究発表大会における大会規模や収支が報告されるとともに、反省点などが示された。

12. 2012年度の作品集および特集号の発行予定と2013

年度の特集号のテーマ募集に関するお願い

(黄学会誌編集委員)

黄学会誌編集委員より、配付資料に基づき、2012年度の作品集および特集号の進行状況の報告がなされた。また、2013年度の特集号のテーマを募集する旨が示された。山中会長より、論文集と同様に作品集および特集号もオンラインジャーナル化を図ることを議論するとともに、そのロードマップを検討することが要請された。また、第60回春季研究発表大会における特別フォーラムやOSを特集号にまとめることを検討するよう、要請された。

13. 論文審査委員会状況報告

(久保(光)論文審査委員長、寺内論文審査委員)

久保(光)論文審査委員長および寺内論文審査委員より、配付資料に基づき、本年度の論文審査状況について報告がなされた。

14. 日本工学会会員の法人移行状況について

(國澤日本工学会担当理事)

國澤日本工学会担当理事より、配布資料に基づき、法人改革に伴う新法人への移行状況に関する他学会の動向が報告された。デザイン学会をどのような形態に移行させるかは、定款の整理を含めて、今後の理事会において議論を進めていきたいとの意向が示された。

15. 電子投票について(國澤日本工学会担当理事)

國澤日本工学会担当理事より、配布資料に基づき、すでに多くの学協会でも取り入れられ始めている電子投票システムの紹介がなされた。諸制度の変更や法人化を絡めて、検討を進めることとなった。

16. 藝術学関連学会連合について

(清水日本学術会議担当理事)

清水日本学術会議担当理事より、配付資料に基づき、第8回シンポジウムのテーマ、発表応募、スケジュールなどに関する報告がなされた。

17. 第5支部平成24年度活動報告・25年度活動方針

(伊原第5支部支部長)

伊原第5支部支部長より、第5支部における本年度に開催した大学合同の学生作品展および研究発表が報告された。また、次年度の計画が示された。

18. IASDR2013準備状況について

(山中会長、杉山担当理事)

山中会長および杉山担当理事より、IASDR2013の進行状況について報告がなされた。今後本格的にはじまる論文査読や学生アルバイトの手配など、様々な場面での協力が要請された。

19. 予算の執行状況について(佐藤(弘)本部事務局長)

佐藤(弘)本部事務局長より、配布資料に基づき、これまでの予算執行状況および変更点について報告がなされた。

20. その他

清水作品集審査委員会より、編集出版委員会から作品審査委員会への移行に伴い、本年度の作品集印刷の最終段階において、表紙フォントの有無に起因するトラブルが生じたことが報告された。本年度は応急対応したが、次年度以降に向けての対応策を検討することとなった。

山中会長より、前回理事会で議題となった「創造技術」の英訳として、産業技術大学院大学で用いている「Innovation for Design and Engineering」としたことが報告された。

三橋第4支部支部長より、2月に開催した研究発表会について報告がなされた。

國本第3支部支部長より、3月に行われる研究発表会に関する告知が行われた。また、若手研究奨励賞を設定したことが報告された。

(記録：八馬)

当学会では、会費の自動引き落としが義務付けられております。すでに、半数以上の会員の方にご利用いただいておりますが、まだ登録がお済でない会員の方は、登録手続きをされますよう、お願い申し上げます。また、口座引き落とし依頼書がお手元にない方は、本部事務局へご請求ください。

本部事務局

献本御礼

◆機関誌

東北工業大学研究業績一覧 2012 年度, 2013, 東北工業大学
東北工業大学紀要 I 理工学編第 34 号, 2014, 東北工業大学
GK Report No.26 特集:かたちのありかた 3, 2014, GK
Design Group
Art & Design for Life Creative Spiral, Vol.6, 2013, 東京造形大学 / 専門学校桑沢デザイン研究所

◆報告書

科学技術国際シンポジウム報告所 イノベーションを牽引する
システム科学技術～日米中の動向に学ぶ～, 独立行政法人科学
技術振興機構研究開発戦略センターシステム科学ユニット
東日本大震災復興研究Ⅲ 震災復興政策の検証と新産業創出への
提言, 東北大学大学院経済学研究科地域産業復興調査研究プ
ロジェクト編, 河北新報出版センター

◆寄贈図書

第 28 回フォーラム公共の色彩を考える記録集 公共の色彩を
問う いま一度 - これでもいいのか日本の環境色彩 -, 尾登誠一・
篠崎幸恵・関根文範・松竹喜代美・古屋敷美香・杉村環・高松
智子編, 公共の色彩を考える会
インクルーシブデザイン 社会の課題を解決する参加型デザイ
ン, ジュリア・カセム・平井康之・塩瀬隆之・森下静香編, 学
芸出版社

【JSSD2014】発表申込・原稿投稿メ切延長のお知らせ

2014 年 7 月 4 日 (金) ～ 6 日 (日) に福井工業大学 福井キャンパスにて日本デザイン学会 第 61 回 春季研究発表大会を開催致しますが、3 月 31 日までであった、発表申込・原稿投稿のメ切を、4 月 15 日 23 時 59 分まで延長いたします。

既に原稿をご投稿頂いた皆様におかれましても、原稿の差し替えが可能ですので、ご活用ください。

なお、これ以降のメ切延長はございませんので、メ切の厳守をお願いいたします。

なお以下の幹事校サイトから詳細はご確認ください。

↓

<http://www.fukui-ut.ac.jp/ut/des/jssd2014/>

皆様の活発なご投稿をお願い致します。

Design シンポジウム 2014 @ 東京大学

2014年11月11日(火)～13日(木)の日程で、日本設計工学会(幹事学会)、日本機械学会、精密工学会、日本建築学会、日本デザイン学会、人工知能学会の共催による Design シンポジウム 2014 @ 東京大学が開催されます。

申込方法など詳細は、Design シンポジウム 2014 ホームページ <http://www.jsde.or.jp/ds2014/index.html> に掲載しますのでご覧ください。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

IASDR2015 の日程について

論文投稿期限：2015年4月6日

ポスター発表のポスター投稿期限：2015年5月4日

ワークショップとエキジビションの登録期限：2015年6月30日

ドクトラル・コロキウム登録期限：2015年7月31日

大会：2015年11月2～5日

皆様の参加をお待ちしています。

interplay2015
brisbane, australia
2-5 November

Call for Participation

IASDR 2015 invites papers, posters, workshops, exhibitors and doctoral colloquium submissions from any area of design research that explores the interplay between design research, science, technology and the arts. All submissions will be double blind reviewed. Submissions must be in English and submitted through the online submission system. All submissions should comply with IASDR 2015 guidelines.

IASDR 2015 will explore the interplay of design research with science, technology and the arts. This continual INTERPLAY provides opportunities to explore interaction between cross-disciplinary knowledge and various design research approaches. IASDR 2015 aims to establish trans-disciplinary research platforms across diverse domains to foster new research and education opportunities and stimulate innovation.

Important Dates
Full paper submission: 6 April 2015
Poster submission: 4 May 2015
Workshop proposals: 30 June 2015
Exhibition proposals: 30 June 2015
Doctoral Colloquium: 31 July 2015

CALL FOR PAPERS
We invite papers which offer original research and application across all domains of design, architecture, planning, urbanism, design, engineering, design, software, interaction design, hardware or media design. The papers should demonstrate collaborative research and application with science or technology or the arts. Papers should be 2000-3000 words including abstract and references and comply with IASDR 2015 guidelines.

CALL FOR POSTERS
Posters should demonstrate original research in progress. Posters should be A1 format.

CALL FOR DOCTORAL COLLOQUIUM
Submitters must include a research proposal maximum two pages.

CALL FOR WORKSHOPS
Workshop program will run on 3 November 2015. Proposals are welcomed for full day and half day workshops. Maximum length of proposal is four pages.

CALL FOR EXHIBITIONS
Proposals should demonstrate application of research to product, systems, services and artifacts. Maximum length of proposal is four pages.

IASDR (The International Association of Societies of Design Research) was established on November 3, 2005. The purpose of the Association is to promote research and study into the aspects of design at all its many levels of application through encouraging collaboration on an international level between independent societies of design research. The Association and its members are encouraged to share their research, ideas and experiences through other activities. The organization of several International Congresses of Design Research of appropriate value and scope has been organized at Taiwan (2010), Hong Kong (2012), Kuala Lumpur (2014), The Netherlands (2015) and Japan (2015). The 4th IASDR Congress is in Brisbane Australia in 2015.

iasdr **QUT**

<http://iasdr2015.com/>

4th ISIDC 2014 アブストラクトメ切のお知らせ

下記の国際会議のアブストラクトのメ切は5月10日に延期されました。

奮って、ご参加いただきますよう、ご案内申し上げます。

CALL FOR PAPER

Abstract submission: 10 April 2014

4th International Service Innovation Design Conference, 2014 (4th ISIDC 2014): Kuching, Malaysia, 21-23 October 2014

Dear distinguish Scholars (Professors, Researchers, Academicians, Post-graduate students) and respected Entrepreneurs,

The 4th International Service Innovation Design Conference 2014 (4th ISIDC2014) is organised and hosted by the Institute of Design and Innovation, Universiti Malaysia Sarawak, Malaysia. The conference will be held in Kuching, Malaysia from 21 to 23 October, 2014. The main theme of the conference is 'New Culture and Value'. The aspiration behind this theme is to generate greater understanding among product developers and service providers on the importance of designing efficient customer's service through process frameworks, methodologies and products. The appreciation of efficient service is transformed into a new culture thus providing new product values to users.

The conference will feature workshops and symposiums that aspire to offer diverse international research experiences to Engineers, Economists, Technologists, Scientists, Designers, Artists, and Entrepreneurs. The conference also serves to share the participant's knowledge to find common ground that creates new culture and values in the field of service design.

We encourage international and national participants submit their papers to 4th ISIDC2014.

All participants? Scholars, Professionals, Entrepreneurs, and Post-graduate students are welcome to present their original work in the following research theme but not limited to:

Co-Creation

Co-

Creating Services / Open Innovation / Service Education
/ Service Process

Service Science

Service Economics / Service Aesthetics / Service Evaluation
/ Social Impact of Services

Holistic Experience

Content Development / User Experience Design / Self-
Service Design / Servicescape / Case Studies /
Service Design / Creativity / Support Systems / Product
Service Systems / Service Innovation and Design / Service
Concept Development

Service Management

Service Marketing / Service Business Models / Service
Strategy / Business Support Services

Service Technology

Tools and Systems for Service / Service Prototyping
/ Distribution and Logistics Services / Service and
Manufacturing Industry

Please refer to the attached brochure and website for further
details of the conference.

Website URL : www.indi.unimas.my/ISIDC2014/

We look forward to your participation in the conference.

Kind Regards,

The Secretariat,

4th ISIDC 2014

Institute of Design and Innovation

Universiti Malaysia Sarawak, Malaysia

住所変更はお済みですか？

住所不明で戻ってくる郵便物が
増えております。

住所変更は確実にお願いします。

届出は文書にてお願いします。

転居される方は、FAX または

綴じ込みの「入会届け」に

朱書きで「変更届」と書き添えて、

事務局までご連絡下さい。

ホームページ

http://jssd.jp/files/change_regular.pdf にも

様式が掲載されておりますので

ご利用ください。

退会等の届出も必ず文書にて

お願いします。

本部事務局